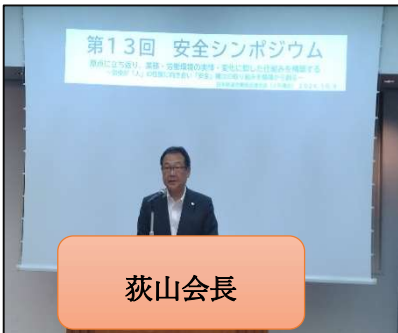


## JR連合

### 第13回安全シンポジウムを開催

10月4日、京都市内において開催され、辻村会長含め貨物連合から7名が参加しました。



荻山会長

JR 連合政所事務局長が進行を務め、会を代表して挨拶に立った JR 連合荻山会長は、「JR 九州高速船における浸水に関わる不正・隠蔽や、JR 貨物における輪軸組立作業に関わる不正等の重大な問題が次々と発生し、JR 産業の安全やコンプライアンスに対する社会の信用を大きく損なう事態となっている。事態を深刻に受け止めつつ、決して責任追求ではなく、発生してしまった原因や背景を検証しなければならない。また、こうした事象はどの職場でも起こり得るとの認識を共有し、【自分ごと】として捉え、コンプライアンス意識を高めて再発防止に取り組んで頂き、シンポジウム開催にあたり、職場からの安全確立に資する有意義な機会となるよう熱心な参画をお願いしたい」と訴えました。



シンポジウムは、3 部構成で進み、第一部では「JR 連合からの課題提起」。第二部では、基調講演として、関西大学名誉教授・安部誠治氏より「事故を減少させ、より安全な鉄道を創る」。大原記念労働科学研究所特別研究員・松田文子氏より「人の性質と安全」。第三部では、『「安全確立」に向けて、労使でどう取り組むべきか』をテーマにパネルディスカッションを開催し、最後に、吉田副会長による閉会の挨拶で会を終えました。



JR・民間合わせて、1 日、3000 万人近くの人が鉄道を利用しており、私達がもし重大な鉄道事故を起こしてしまうと、「生命」・「人生」・「生活」の 3 つの「生」を人から奪ってしまいます。



政所局長

JR 貨物では、輪軸圧入作業における圧入記録データ改ざんがあり、最悪、人命を奪いかねない事象が起きた可能性もありました。社会からの信用信頼を損ない、回復には相当の覚悟を持って安全確立の取り組みが必要です。今後、輸送障害が頻発する冬季に入りますが、「定時に発車させたい」「少しでも遅れを取り戻したい」と焦る作業は、大きな事故を発生させるリスクが高まります。「列車を止める」「作業を一旦止める」等、勇気をもった安全最優先の作業をお願い致します。

『安全に終わりはありません』



吉田副会長